



特252

84

十一年一月

(統制ニ關スル社内研究叢書 第八號)

セメント價格ノ變遷トセメント業ノ統制

小野田セメント製造株式會社

始



特252  
84

コノ叢書ハ社内研究ノ目的ヲ以テ作成シタルモノ  
ナリ。之ヲ社外ニ配布スル場合ニハ豫メ秘書課ノ  
諒解ヲ得ルヲ要ス。

### セメント價格ノ變遷トセメント業ノ統制

#### ○序 言

我國セメント界ノ推移ヲ通觀スルニ



ヨリ三時代ニ大別出來ルト思フ。

自由競争ノ原則ニ從ヒ自然ノ變遷ニ委サレタ時代デアツテ大  
正十三年十月セメント聯合會成立ニ至ル迄ヲ云ヒ(二)ハ聯合會ニ依ツテ生産ノ統制

ヲ圖リ間接ニセメント價格ヲ穩健ナル範圍ニ維持セントシタ時代デアツテ昭和五  
年十一月各地ニセメント販賣協會ノ設立ヲ見タル迄(三)ハ從來ノ生産統制ニ並行シ  
テ販賣協會ガ販賣ノ區域、數量並ニ價格ニ關スル統制ヲ實施シテ以來ノコトヲ云





フノデアル。

以下之等ノ時代ニ於テセメント價格ハ如何ナル變遷ヲ示シタカ而シテセメント價格トセメント業ノ統制トノ間ニハ如何ナル關係ヲ有スルカニ付イテ檢討ヲ試ミタイト思フ。

### ○セメント價格ノ變遷

先ヅセメント價格ノ變遷デアルガ之ヲ正確ニ述ベントスルニハ全國主要市場ノ推移ヲ綜合シテ觀察スル必要ガアルケレドモ、立論ノ便宜上茲ニハ代表的ニ阪神市場ノセメント價格ニ付イテ特ニ歐洲大戰以降ノ動向ヲ略述スルニ止メル。(註一) 尙本稿ニ於テハセメント價格ヲ大正九年迄ハ樽入、昭和五年迄ハ麻袋入、其後ハ紙袋入ヲ建値トシテ述ベルコトニシタ。

言フ迄モナク樽入、麻袋入、紙袋入間ノ值額ガ一定シテ居ルナラバ、建値ヲ何レカソノ一ニ統一スル方ガ價格ノ推移ヲ比較スルノニ便利デアル。併シナガラ實際ニ於テハ之等容器別ノ值額ハ時代ニ依ツテ著シク相違シ一率ニ決定スルコトハ出來ナイカラ止ムヲ得ズ樽入ガ一般ニ使用セラレタ時代ニハ樽入建値ヲ、麻袋全盛時代ニハ麻袋入建値ヲ、而シテ最近數ケ年ニ於テハ紙袋入建値ヲ以テ表示スルコト、シタ譯デアル。(註二)

(註一) 本稿ニセメント價格トシテ掲グル數字ハ何レモ特約店向沖着渡卸賣值段デアル。尤モ之ハ主トシテ小野田社ヨリ見タル值段デアツテ一般的ニハ時期並ニ各社ニ依ツテ多少相違スベキモ大局的ニ觀テ大差ハナイト思フ。

(註二) 聯合會ニ於テハ昭和五年四月以降三回ニ亘ツテ容器別公定值額ヲ決定シタガ平均スレバ大體左ノ通りデアル。

麻袋入ハ樽入ニ比較シ一噸ニ付 約九十錢安

紙袋入ハ麻袋入ニ比較シ一噸ニ付 約一圓六十錢安

紙袋入ハ樽入ニ比較シ一噸ニ付 約二圓五十錢安

### (一)自由競争時代

自由競争時代ハ更ニ之ヲ別ツテイ大正三年ヨリ同九年ニ至ルセメント界ノ波



瀾重疊時代即チ大戰ノ勃發、進展及戰後ノ大反動ニ依ツテセメント價格ガ著シク高下シタ時代ト(ロ)其後ノ整理時代即チ大正十年以降同十三年セメント聯合會成立ニ至ル迄トノ二期ニ區分シテ觀察スルコトニシタイ。

(イ)第一期

我國經濟界ハ大正三年七月世界大戰ニ際會シテ未曾有ノ飛躍期ニ直面シタノデアアルガ大戰初期ニ於テハ戰局ノ前途ニ見極メガツカナイ爲一般財界ハ一時沈滞ヲ免レナカッタ。セメント界亦ソノ影響ヲ受ケ大戰勃發後約一ケ年間ハ樽入毎疋十四圓七十錢乃至十五圓程度ノ市價ヲ持續シ形勢觀望ノ状態デアッタ。

然ルニ大正四年下期ニ入り戰局ノ發展ト共ニセメント市況ハ漸ク活氣ヲ呈シ價格モ幾分上向ノ氣配トナッタ。其後内地需要ノ増加ト海外輸出ノ旺盛トハ益々市況ノ好轉、市價ノ奔騰ヲ促シ、大正四年十一月一疋當リ十六圓見當ノモノガ翌五年五月ニハ十八圓六十錢、六年七月ニハ三十七圓トナリ

更ニ七年十月ニ於テハ每疋四十二圓ノ高値ヲ唱フルニ至リ殆ンド天井知らズノ有様デアッタ。

恰モ大正七年十一月休戰條約ノ成立ハ内外市場ニ軟弱ノ氣配ヲ齎シ市價モ一時三十七圓見當迄低落シタケレドモ、八年末カラ九年ニ掛ケテ所謂戰後ノ空景氣ニ依ツテ再ビ市價急騰シ大正九年三月ニハ一疋當リ六十九圓ト云フ異常ノ高値ヲ見ル場合モアッタ。

然ルニ同月株價ノ暴落ヲ端緒トシテ戰後ノ大反動勃發スルヤ忽チ市價ノ急落ヲ來シ同年十一月ニハ早クモ四十七圓前後ノ安値ヲ唱フルニ至ツタノデアル。(註三)

(註三) 大正三年歐洲大戰勃發當時ヨリ七年十一月ノ休戰、九年三月ノ大反動ヲ經テ同年末ニ至ルセメント價格變遷ノ概要ヲ表ニ示セバ左ノ通りデアル。

年 月	單價(樽入一疋當リ)	價格變動ノ原因
大正三年三月	一六・〇〇見當	
七月	一五・〇〇〃	歐洲大戰ノ勃發



十一月	一四・七〇〃	
大正四年三月	一四・七〇〃	
七月	一五・〇〇〃	我輸出貿易活況ヲ呈ス
十一月	一六・〇〇〃	
大正五年三月	一七・〇〇〃	
五月	一八・六〇〃	
大正六年三月	二七・〇〇〃	二月米國聯合軍ニ參加
五月	三二・〇〇〃	
七月	三七・〇〇〃	九月金輸出禁止
大正七年五月	三八・〇〇〃	四月シベリア出兵
十月	四二・〇〇〃	十一月歐洲大戰休戰條約成ル
大正八年三月	三八・五〇〃	
七月	三七・〇〇〃	
十一月	三九・〇〇〃	戰後ノ大投機熱高調
大正九年一月	四七・〇〇〃	

(ロ) 第二期

大正九年三月ノ反動ハ翌十年ニ入ツテ餘勢尙止マズ同年一月ニ於テハ每噸樽入ニテ**四十三**／**四圓**、麻袋入ニシテ**四十圓**見當、同三月ニハ同麻袋入三十圓近ク迄低落シ業界ノ前途逆睹シ難キモノガアツタ。

其後同業者ノ協調、需要ノ増進等ニ依ツテ漸次市價モ回復シ一時ハ四十圓見當迄持直シタガ、大正十二年關東大震災ヲ動機トシテ實現シタ各社ノ増産ハ一般財界ノ不況並ニ復興事業ノ遅延ト相俟ツテ業界ニ著シイ生産過剩ヲ齎シ惹イテ價格ヲ暴落セシメタ爲翌十三年九月ノ如キハ實ニ麻袋入二十一圓ト云フ極端ナル安値サヘ現ハレ**セメント**界ハ遂ニ拾收スベカラザル状態ニ陥ラントシタ。

同業者間ニ統制機關ノ必要ナルコトハ歐洲大戰後各國經濟界ノ歸趨ニ鑑ミ

戰後ノ大反動起ル

三月	六九・〇〇〃
十一月	四七・〇〇〃



早クヨリ痛感シツ、而モ未ダ具體化セラル、ニ至ラナカツタノデアアルガ、茲ニ至ツテ各社相寄り種々之ガ對策ヲ考究シタ結果漸ク十月五日セメント聯合會ヲ組織スルコト、ナツタノデアアル。(註四)

(註四) 大正十年以降同十三年セメント聯合會成立前後ニ至ルセメント價格ノ變遷ノ概要ヲ表示セバ左ノ通りデアアル。

年 月	單價(麻袋入一聽當リ)	價格變動ノ原因
大正十年一月	四〇・〇〇見當	
三月	三〇・〇〇〃	同業者價格ノ協定、操業短縮ニ關シ會合ス
七月—十一月	三二・〇〇〃	
大正十一年一月	三六・〇〇〃	需要増進市價回復
三月	三八・〇〇〃	
五月—九月	四〇・〇〇〃	
大正十二年一月—九月	三八・〇〇〃	九月一日關東大震災
十一月	三〇・〇〇〃	
大正十三年一月	二八・〇〇〃	財界益々不況セメント滯貨激増ス

(二) 生産統制時代

セメント聯合會ガ成立シテ生産ノ統制ニ努メル一方復興計劃モ漸ク具體化セラレルニ至ツタ爲、セメント市況ハ大正十三年末ヨリ急ニ引締リ十四年三月ニ入ツテ麻袋入一聽當リ三十三圓迄好轉シタ。

然ルニ一般經濟界ノ不況、セメント需要ノ遞減ハ漸次商狀ヲ惡化セシメ、次イデ昭和二年四月臺灣銀行ノ破綻ヲ動機トシテ財界ニ大恐慌起リ遂ニモラトリアムヲ實施スルヤ、セメント價格ハ聯合會成立以來ノ安値二十二圓乃至二十三圓ヲ現出スルニ至ツタ。

幸ヒ同業者間ニ於テ無益ノ競争ヲ避ケルコトニ努力シタ結果昭和三年下期ヨリ同四年上期ニ亘ツテ相當市價ノ回復ヲ見タノデアアルガ、同年七月濱口内閣

三月—五月	二七・〇〇〃	
九月	二一・〇〇〃	十月セメント聯合會成立ス
十一月	三〇・〇〇〃	



ガ成立シテ緊縮政策ヲトリ引續イテ金解禁ヲ實行シタ爲、各種ノ事業ハ極度ニ萎微シセメント界亦稀ニ見ル不況ニ陥ツタ。斯クテ五年九月ニ於ケルセメント市價ハ麻袋入一匁當リ十三圓六十錢、紙袋入ニシテ十二圓見當ト云フ空前ノ安値ニ下落シタ。

茲ニ於テ各社ハ益々協調ノ必要ヲ認メ同月九州十日會ノ成立ヲ第一歩トシテ十一月ニハ各地ニセメント販賣協會ヲ設立スルニ至リ、市況ハ麻袋入十七圓六十錢、紙袋入十六圓見當迄回復シタノデアアル。(註五)

(註五) 大正十四年以降昭和五年各地販賣協會成立前後ノ價格變遷ノ概要

年 月	單價 (麻袋入一匁當リ)	價格變動ノ原因
大正十四年三月	三三・〇〇 <sup>円</sup> 見當	財界不振セメント需要遞減ス
十一月	二九・〇〇〃	
大正十五年一月—十一月	二八・〇〇〃	復興事業進捗ニ伴ヒ稍好況ニ向フ
昭和二年一月	二九・〇〇〃	四月金融大恐慌ノ爲モラトリアムヲ布ク
五月	二五・〇〇〃	

十一月	二二・〇〇〃	二月小野田、淺野兩社率先市況安定ニ努力スベキ旨ヲ聲明ス
昭和三年三月	二四・〇〇〃	
七月—十一月	二八・〇〇〃	
昭和四年一月—五月	二八・〇〇〃	七月濱口内閣成立、緊縮政策發表
九月—十一月	二四・〇〇〃	金解禁ノ實施
昭和五年一月	二二・〇〇〃	
七月	一六・〇〇〃	
九月—十一月	一三・六〇〃 (紙袋入) 一二・〇〇〃 (紙袋入)	十一月各地販賣協會成立ス
十二月	一七・六〇〃 (紙袋入) 一六・〇〇〃 (紙袋入)	

### (三) 生産及販賣統制時代

從來セメント聯合會ノ手ニ依ツテ行ハレタ生産統制ト並行シテ、新タニ販賣協會ガ販賣ノ區域、數量ノミナラズ直接價格ニ關スル統制ヲ實施スルコトニナツテカラ同協會ハ矢繼早ニセメント價格ノ引上ヲ行ツタ。即チ大阪港本船々側渡標準價格(紙袋入一匁當リ)ヲ例ニトレバ左ノ通りデ



アル。

二二

昭和五年十一月二十九日協定	十六圓六十錢
昭和六年一月七日協定	十七圓二十錢
一月十五日協定	十八圓四十錢
二月二日協定	十九圓四十錢
三月一日協定	二十圓
八月二十一日協定	二十一圓

其後滿洲事變、上海事變ノ勃發ト共ニ所謂軍需景氣ガ出現シ更ニ匡救事業ノ開始ニ依ツテセメントノ需要ハ益々増加シタ爲昭和七年下期ヨリ八年下期ニ掛ケテ二十二圓乃至二十二圓四十錢程度ノ好値ヲ維持スルコトガ出來タ。然ルニ斯クノ如キセメント界ノ好調ハ反面ニ於テ會員各社ノ擴張及會員外會社ノ新設ヲ誘發スルコト、ナツタ。而モ之ガ對策ニ付イテ聯合會ニテ約二ヶ年ニ亘リ研究ノ結果「増産計劃中止案ヨリモ増産能力ニ對スル加重制限ノ擴

大ヲ以テ優レルモノ」ト殆ンド意見一致シタルニ唯一社ノミ之ニ反對シタル爲協議纏ラズ、其他當時ノ情勢上「セメント價格ノ引下ヲ必要トスベシ」ト云フ說ニ關シテモ業者ノ間ニ兎角意見ノ對立ヲ生ジタノデ昭和九年上期ニ入ツテ市況ハ漸ク軟弱トナリ同年下期ニ於テハ十九圓四十錢見當迄下落シタ。斯クテ同年十一月第二次聯合會ノ期間滿了ト共ニセメント界ハ遂ニ増産對策價格引下、其他ノ諸問題ヲ繞ツテ舊聯合會々員中十三社ニ依ル新聯盟ト三社ノ新アウトサイダートノ二派ニ分裂シタノデアアルガ實際商工省ハセメント業ニ對シテ所定ノ増産中止及生産制限ニ服スベキコトヲ命ズルト共ニ一方ニ於テ販賣價格引下ノ目的ヲ以テ最高價格ヲ制定シタ。併シナガラ其最高價格ガ當時ノ實際市價ト大差ナキモノデアツタ爲、各地市價ニ及ボシタ效果ハ多クハ期待ニ反シ阪神地方ニ於テハ九年十二月／十年五月十九圓乃至十九圓二十錢見當、十年六月／十一月十八圓八十錢乃至十九圓見當、即チ統制命令發動後一ヶ年間ノ市價ハ同命令發動前ノ市價ニ比較シテ大差ナキ數字ヲ示シタノ

一三



デアル。(註六)

(註六) 昭和六年以降最近ニ至ル價格變遷ノ概要

年 月	單價(紙袋入一匁當リ)	價格變動ノ原因
昭和六年三月—七月	二〇・〇〇見當	九月滿州事變ノ勃發
十月—十一月	二一・〇〇〃	
昭和七年一月	二一・〇〇〃	上海事變ノ勃發
三月—十一月	二二・〇〇〃	
昭和八年一月—五月	二二・四〇〃	
六月—十一月	二二・〇〇〃	滿洲出荷ニ關スル協議行惱ミ
昭和九年一月—五月	二〇・〇〇〃	
七月—十一月	一九・四〇〃	十一月セメント業ニ對シ統制命令發動サル
昭和十年一月—五月	一九・〇〇〃	十二月新聯合會ノ成立
六月—十一月	一八・八〇〃	

○統制ノセメント價格ニ及ボス影響

各時代ニ於ケルセメント價格ノ變遷ハ大略前項ニ述ベタ通りデアアルガ吾々ハ之等ノ數字ニ依ツテセメント價格トセメント業ノ統制トノ關係ニツイテ左ノ事實ヲ知ルコトガ出來ルト思フ。(註七)

(A) 一般ニ統制ハ價格ノ安定ヲ齎スト云ハレテ居ルガ如何ナル場合ニ於テモ常ニ價格ヲ安定セシムルトハ限ラナイ。

即チ夫々ノ時代ニ於ケル價格變動ノ狀態ヲ比較スルニ

自由競争時代	最高價格(A)	最低價格(B)	差(C)	C/A
(イ) 第一期	六九・〇〇(樽入)	一四・七〇	五四・三〇	七九%
(ロ) 第二期	四〇・〇〇(麻袋入)	二一・〇〇	一九・〇〇	四八%
●生産統制時代	三三・〇〇(麻袋入)	一三・六〇	一九・四〇	五九%
●生産及販賣統制時代	二二・四〇(紙袋入)	一六・〇〇	六・四〇	二九%



右ニ示ス通り生産統制時代ニ於テハ自由競争時代ノ第二期ニ比較シテ却ツテ價格ノ高下ガ甚シイ。

之ハ恰モ生産統制時代ニ金融大恐慌ガ起リモラトリアムニ依ツテセメント價格ノ大ナル變動ヲ齎シタ爲デアアル。換言スレバ如何ニ統制ヲ實施シテモ一般財界ニ著シイ變動ノアル場合ニハ之ニ抗シ得ナイコトヲ物語ルモノデアツテ、統制至上論者ノ主張スルガ如ク一概ニ統制ニ依ツテ價格ヲ安定セシメ得ルト斷定スルコトハ必ズシモ當ラナイト云ハネバナラヌ。

次ニ統制ノセメント價格ニ及ボス影響トシテ見遁シ得ナイノハ

(B)生産及販賣ノ統制ハセメント價格ノ著シイ上騰ヲ齎ス

ト云フコトデアアル。即チ大正十三年十月聯合會成立ノ前後ニツイテ見ルニ

大正十三年	九月	二一・〇〇〇(麻袋入)
同	年十一月	三〇・〇〇〇(同)
同	十四年	三月
		三三・〇〇〇(同)

僅カ半ケ年間ニ一廻當リ十二圓約五割七分ノ値上リヲ示シ、又昭和五年十一月各

地販賣協會ノ成立當時ニ於テハ

昭和五年十一月	一二・〇〇〇(紙袋入)
同	六年十一月
	二一・〇〇〇(同)

一ケ年間ニ每廻九圓、實ニ七割五分ノ上騰トナツテ居ル。

言フ迄モナク生産及販賣ノ統制ハ業界ノ安定ヲ企圖スルモノデアアルガ、其成立ノ時ハ大抵業界不況ノ極端ナル際デアアルカラ、統制實施ノ當初ニ於テ價格ニ相當ノ値上リヲ見ルコトハ當然デアラウ。

併シナガラ一旦業界ガ統制ニ依ツテ不況ヲ脱シ業績ノ向上ヲ見タル場合、更ニ之ヲ常態トシテ持續スル爲ニ價格ノ吊上ヲ實行スルナラバ却ツテ之ガ爲業界ニ急激ナル増産ヲ發生セシメ惹イテハ統制ヲ混亂セシムル結果トナルノデアアル。コノ點ニ關シテハ以下項ヲ改メテ述ベルコトニスル。

(註七)セメント價格ノ變遷ニ付イテハ本文ニ述ベタ外尙左ノ事實ニ氣付クコト、思フ。



即チセメント價格ハ短期間ヲ見レバ種々高低ガアルケレドモ長期間ヲ通ジテ觀察スレバ歐洲大戰當時ニ比較シテ驚クベキ下落ヲ示シテ居ルコトデアル。併シナガラ之ハ一般物價ノ低落ニ依ルコトガ多ク又一般學術並ニ機械工業ノ發達ニ依ツテセメント業ノ生産設備ノ改良經營方法ノ改善ヲ可能ナラシメタ結果生産原價ガ著シク低下シタ爲デアツテ直接セメント業ノ統制ト關係ノ少ナイ問題デアルカラ茲ニ論ズルコトヲ省略スル。

### ○セメント價格ノ吊上ト各社收益ノ向上

セメント價格ノ變遷ヲ見ルニ統制ノ強化セラレタ際ニハ必ず價格ノ著シイ吊上ヲ生ジテ居ルガ然ラバカ、ル價格ノ吊上ハ各社ノ利益率ニ如何ナル影響ヲ與ヘタデアラウカ。

先ヅ聯合會成立直後ノ大正十四年上期ニ於ケル成績ヲ其後五ケ年間ノ同期ノ成績ニ比較スレバ(註八)

年 期 利益率

大正十四年上期	七・六%
同 十五年上期	一三・五%
昭和 二年上期	一五・七%
同 三年上期	一〇・三%
同 四年上期	一八・二%
同 五年上期	六・六%

更ニ各地販賣協會成立後ノ情勢ハ

昭和 六年上期	五・四%
同 七年上期	一六・八%
同 八年上期	二一・一%
同 九年上期	二一・三%
同 十年上期	一九・五%

デアツテ、一時的ニハ一般經濟界ノ波瀾ノ爲ニ低下ヲ見タ場合モアルケレドモ之



ヲ概觀スレバ生産統制特ニ販賣統制ヲ契機トシテ各社ノ利益率ハ著シク増加シテ居ル。

(註八)利益率ハ各社考課狀ニツキ各期利益金(償却金ヲ含ム)ノ二倍ヲ期末拂込資本金ヲ以テ除シタモノデアル。尤モ一部考課狀ノ配布ナキ會社ニツイテハ止ムヲ得ズ計算カラ除外シタ。

又試ミニ聯合會成立以後各社收益ノ向上ハ如何ニ各社ノ配當狀態ニ反映シタカヲ考察スルニ別表(註九)ニ示ス通り聯合會並ニ販賣協會ノ成立當時ニ於テハ大部分ノ會社ガ無配當又ハ五分以下ノ低配當ナルニ對シ、昭和八年以降ニ於テハ大部分ノ會社ハ殆ンド跡ヲ絶チ大部分ハ六分以上ニ割見當ノ配當ヲ行ヒツ、アル狀態デアツテ正ニ隔世ノ感アリト言ハネバナラヌ。

(註九)大正十四年以降各年上期ニ於ケル各社配當狀態ヲ表示スレバ左ノ通りデアル。

年一 期	調査シタル 會社數	配當率	
		配	當率
大正十四—上	一六	二〇%— 一六%— 一五%— 一二%— 一〇%— 六%	五%— 一%— 〇%

昭和	十五—上	二—上	三—上	四—上	五—上	六—上	七—上	八—上	九—上	十—上
會社數	一六	一六	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一八
配										—
當	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三
率	八	八	六	九	四	三	五	九	八	〇
	一	一	一	一	二	三	四	三	三	三
	七	五	八	二	八	八	三	八	一	一

○各社收益ノ向上ト増産計劃ノ簇出

纏ツテ最近十ヶ年間ニ於ケルセメント需要増進ノ趨勢ヲ見ルニ

大正十四年 約二四八萬吨(輸出ヲ含ム)  
昭和 九年 約四八四萬吨(同)



デアツテ約九五%ノ増加ヲ示シテ居ル。  
之ニ對シテ生産能力ノ方ハ

大正十四年末 約 三三〇萬瓩(十一月末月額生産能力ノ十二倍)  
昭和 九年末 約一、〇〇二萬瓩(同)

トナリ約二〇四%ノ増加ニ相當シ、需要ニ比較シテ能力ノ増進セル割合ガ著シク大デアル。

更ニ需要ト生産能力トニ付イテ夫々前年度ニ對スル當年度ノ増加率ヲ計算スルニ前記十ケ年間ノ累年増加率ハ平均シテ

需 要 約 八・八%  
生産能力 約一三・八%

又之ヲ昭和五年以降五ケ年間ニ付イテ見レバ需要ノ三・八%ニ對シテ能力ハ一三・九%トナツテ居ル。

然ラバ斯クノ如キ生産能力ノ過剩ヲ招來シタ原因ハ何デアルカ。一般ニハ

(イ) 統制組織ノ缺陷

從來ノ統制機構ガ各社ノ生産許容數及出荷數量ヲ生産能力ニ比例シテ割當ルコトニナツテ居ル爲、各社ハ自社ノ生産及出荷高ヲ増加セシムルニハ工場ノ新設、擴張ニヨツテ生産能力ヲ増大セシムルヨリ外ニ途ハナイ。而モ需要ハ大體一定シテ居ルカラ一會社ノ能力擴張ハ直ニ他社ノ出荷數量ノ減少トナツテ現ハレル虞ガアル

(ロ) セメント業ノ特異性

セメント業ハ原料ガ國內至ル處ニ豊富ニ存在シ生産設備及製造技術モ比較的簡單デアルカラ工場ノ新設擴張ガ容易ニ行ハレル  
等ガ述べラレテ居ルケレドモ根本的ノ原因ハ畢竟前述ノ如ク

統制ニ依ツテセメント價格ガ吊上げラレ各社ノ利益ガ過大トナツタ結果デア  
アル

コトハ多言ヲ要シナイト思フ。



○結 言

以上セメント價格ノ變遷ヲ考究スルト共ニセメント業ノ統制トノ間ニ如何ナル關係ガアルカト云フ點ヲ檢討シタノデアアルガ、之ヲ要スルニセメント業ノ統制ハ必ズシモ常ニ價格ノ安定ニ實效ヲ齎シタトハ云ヒ得ナイ計リデナク、他ノ一面ニ於テ

價格ヲ吊上ゲルコトニ依ツテ各社ノ收益ヲ著大ナラシメルト同時ニ過度ノ増産計劃ヲ發生セシメ其結果外ニ對シテハ一般需要家ノ利益ヲ害シ内ニ於テハ生産能力過剩ノ爲ニ統制ソレ自體ノ混亂ヲ招來スルニ至ツタト言フベキデアアル。

以上。

昭和十一年一月二十日印刷  
昭和十一年一月廿五日發行

【非賣品】

山口縣厚狹郡小野田町六千七百七十五番地  
著作兼發行人 光 谷 堯

山口縣厚狹郡小野田町五千九百九十八番地  
印刷人 益 田 繁 人

山口縣厚狹郡小野田町五千九百九十八番地  
印刷所 益 田 印刷所

不許複製

山口縣厚狹郡小野田町六千二百七十六番地  
發行所 小野田セメント製造株式會社  
總務部



終

標準規格 A-5  
148x210mm